

福祉の先進国、肌で感じた現場

坂牛 雄大 さん・米澤 蘭 さん・旭岡 琴巴 さん
(介護福祉学校2年)

4年ぶりの福祉の先進地・フィンランドへの留学事業。海外自体が初めてという3人の学生が派遣され、無事に帰国しました。

「貴重な経験でした。町の代表として派遣していただき感謝申し上げます」とリーダーの旭岡さんが話すように、ホームステイや調理体験、保育・介護施設での交流など、約2週間の研修を有意義に過ごしました。

坂牛さんは「限りある研修の中で、時間も意識しながら学べました」と振り返り、米澤さんは「海外特有の相手に干渉すぎない文化が介護の現場でも感じました。それが故に誰にでも平等に関わる姿勢は、日本では味わえない視野の広がる経験でした」と、働く姿勢の違いについて学んだと語りました。

今後3人は、活動報告会を行う予定です。



“大親友”が奏でるメロディーは無限大

野澤 雪音 さん(左)・太田 恵依 さん(右) (栗山高校1年)

現在2人で活動する吹奏楽局。「お互いがいるから」という理由で、親友同士で仲良く入部したと話します。

太田さんはドラムの経験がありましたが、野澤さんは初心者。最初は上手くできない悔しさを感じていましたが、発表会が何度もあり、その度焦りと涙が出ていました」と話します。

太田さんのサポートもあり、週5回の練習を重ね「最近、大人の方から中学からの経験者」と間違われました。成長を実感しています」と話します。また、金賞にあと一点届かなかった1月のコンテストも振り返り「次回は文句なしの演奏をしたい」と二人でリベンジに燃えていました。

3月には札幌ひなまつりコンサートで、栗山中との合同演奏を控えています。太田さんは「実力を発揮する絶好のチャンス。札幌の前で爪痕を残す演奏を披露したいです」と力強く話していました。



全校生徒に演奏した学校祭(7月)、栗山中との合同演奏(10月)